

■リーダーの手引き

2020年「10日間の特別祈禱」へようこそ！ 2006年に「世界的な聖霊の注ぎを求め運動」がスタートして以来、10日間の特別祈禱を通じて、主は多くの奇跡を行ってこられました。聖霊は、リバイバル、回心、伝道への熱意の回復と、人間関係における癒しを与えてくださいました。まさしく、祈りのあるところにリバイバルが生まれるのです！

この手引きは、リーダーを助けるために作られたものです。最初の部分は、2020年「10日間の特別祈禱」に関する内容を取り上げ、次の部分では、あなたの所属する祈りのグループを助ける内容が含まれています。ただしこれらは、あくまでも参考程度に用いていただくためのものです。聖霊の自由な導きに従って、あなたの教会にふさわしい形に遠慮なく調整してください。

「10日間の特別祈禱」では2020年1月8日～17日の期間を通し、毎日教会で集会を開いて祈るか、あるいは信徒が電話などを通じて「祈禱」プログラムをもつなど、さまざまな工夫を凝らしながら10日間を過ごすことになります。

11日目の1月18日は安息日です。この日は、「神様の霊を求めて」祈り続けてきたことに応えてくださった神様に感謝をささげる日です。この「10日間の特別祈禱」プログラムが、あなたの所属教会や小グループにとって大きな助けとなり、力強く働かれる聖霊をあなた自身が体験する機会となるように心から祈っています。

■2019年の「10日間の特別祈禱」に参加した人々の証しです。

N. K. (ザンビア)

『10日間の特別祈禱』の3日目に、わたしは神様のご介入を願い求めなければならないと強く感じて会衆の前で祈っていました。「誰かが自殺を試みていましたら、どうか主なる神様、あなたが彼らの自殺を止めて下さい」。

翌日、あろうことかわたしの叔母が自殺を試みたとき知ったときには衝撃を受けました。ですが、わたしたちの祈りによって神様は彼女の命を救ってくださいました。この証しを書いている今も彼女は元気で、神様が彼女の人生に働いておられます。わたしたちの祈りに対する神様の奇跡的な答えに感謝しています。

JJ.(米国、ノースカロライナ州)

「2018年の「10日間の特別祈禱」で、友人のアリシアは5名の名前を挙げて、彼らがキリストに導かれるよう祈り求めました。神様は彼女のほとんどの祈りに答えてくださいましたが、ただ一人、彼女の姉妹については答えがありませんでした。しかしながら、今年『10日間の特別祈禱』の期間中にアリシアの姉妹が集会に現れ、イエス様に従う決心をしたのです。現在、彼女は聖書研究を受けてバプテスマの準備をしています。

同時に、『10日間の特別祈禱』に参加した2名の求道者がバプテスマの決心をしています。わたしたちは神様のみ業と『10日間の特別祈禱』の働きに感謝しています。わたしたちがともに祈り集まる時に、イエス様との深い経験ができたのです。

アジアの信徒

『10日間の特別祈禱』の期間中、わたし自身にアドベンチストのメッセージを宣べ伝える機会が与えられるように天の父なる神様に祈りました。そして『10日間の特別祈禱』の後、キリスト教の背景のない大きなグループにアドベンチストのメッセージを伝えたところ、彼らはわたしのメッセージを受け入れたのです。

わたしの祈りに対する答えは明確に与えられました。これが『10日間の特別祈禱』を終えて経験した最大の証です。

「10 日間の特別祈禱」について

■なぜ「神様の霊を求めろ」のか？

エレン・G・ホワイトは次のように書いています。
「キリストのために、奉仕の生涯を送っている者は、多くの人々が想っているより、はるかに高く、深く、また広き経験を要します。すでに、神の大家族の一員となっている者でも、主の栄えを見、栄えに榮えいやまさりて、その同じかたちにかわるとは、何を意味するかを知らない人が沢山あります。また多くの人々は、キリストの美しさのひらめきをわずかばかり認め、心に飛び立つばかりの喜びを抱き、なお充分に、なお深く、キリストの愛を知らん事を欲求します。かくの如き人は、神を求めろの心中の希望をますます厚くせねばなりません。」
（『福音宣伝者』448 ページ）

わたしたちは主イエスと共にある、より高く、深淵で、広大な経験を探求し、聖霊がわたしたちの現実的な生活に何をしてくださるかを経験したいのです。

■日ごとの読み物

10 日間毎日、「日ごとの読み物」が用意されています。最初のページは聖句と、短く実用的な証しで始まります。次のページは、「祈りについての聖句」と、具体的な「祈りの提案」、そして「讃美歌の提案」を記載しています。参加者には、読み物をコピーして配布することをおすすめします。

世界中の教会が、日ごとのテーマで祈ることによって、心をついにすることが出来ます。聖句やあかしの書の引用、また祈りの提案を用いて、特別祈禱に加わりましょう。ただし、祈りの提案をすべて祈らなければ、と感じる必要はありません。何人かの小さなグループに分かれて、それぞれが割り当てられた祈りの提案を祈ることもできるでしょう。

祈りの提案のいくつかは、世界中のセブンスデー・アドベンチスト教会についてのものです。わたしたちの教会家族について祈ることは大切なことですが、グループに地域からの来訪者がいたならば、むしろ地域に根ざした祈りのためにこの時間を用いても良いでしょう。

どのようにすれば来訪者を居心地良く歓迎でき、グループの一員だと感じるかを考えて計画しましょう。

■祈禱会の進め方についての提案

各部分にどれだけの時間をかけるかについては、祈る度に違ってくると思います。

以下の時間割は、一般的にうまくいくとされている例です。

- ・ 歓迎・導入：2～5 分
- ・ 聖書やあかしの書の朗読：3～5 分
- ・ 神様を賛美する祈りの時間：10 分

- ・ 罪の告白と罪への勝利を求めろの祈りの時間：3～5 分
- ・ 嘆願と執り成しの祈りの時間：35 分
- ・ 感謝の祈りの時間：10 分

■7 人のために執り成しをしましょう

10 日間の特別祈禱においてそれぞれが祈るべき 7 人を示してくださるように神様に求めましょう。家族や友人、職場の同僚などが示されるかも知れません。その 7 人がキリストとつながることができるように聖霊が導いてくださることを祈り求めましょう。また、7 人の必要について、いかに祈るべきかを示してくださるように、そして 10 日の間に 7 人に働きかけることができるように祈りましょう。参加者が祈る 7 人の名前を記録することができるようにカードや紙を配ります。本書の記入用紙をご活用ください。

■2020 年「10 日間の特別祈禱」における

安息日について

期間中、2 回の安息日がありますが、その両方において特別な祈りの課題を決めて祈り、応えられた祈りについての証しをしましょう。日々行われる祈りの集まりでなにか起きているかを、兄弟である教会員と分かち合うのは素晴らしいことです。柔軟な発想をもって計画しましょう。

■最終日の安息日(18 日/土)について

最終日の安息日は特に、10 日間の特別祈禱を通して神様がしてくださったみ業に感謝するときとして計画しましょう。応えられた祈りについての証し、祈りについての聖書のメッセージ、そして賛美の時間を十分に確保しましょう。それまでの日ごとの祈りの集まりに参加できなかった人たちも、隣人のためにとりなして祈ることの喜びを経験することができるように導きましょう。

■2020 年「10 日間の特別祈禱」の

フォローアップ：全員参加伝道

2020 年の「10 日間の特別祈禱」で神様が始められたみ業が完成されるよう、また、神様があなたの教会や小グループに望んでおられることが示されるように熱心に祈りましょう。それは、毎週の祈禱会として継続することかも知れませんし、教会内もしくは地域における伝道のために、新しい働きを始めることかも知れません。心を開いて、神様が導かれるままに従いましょう。主と共に歩むとき、わたしたちは多くの驚きの体験することでしょう。

* 「10 日間の特別祈禱」伝道チャレンジも参照のこと。

【あなたの証しをお送りください】

2020年の「10日間の特別祈禱」を通して、神様がどのように働かれたかを、ぜひお知らせください！あなたの経験は他の参加者にとっての励ましとなります。

pm@adventist.jp（信徒伝道部代表）
無料 FAX:0120-630-058

「特別祈禱」の指針

■祈りに同意する

神に願いをささげるとき、他の人が同じ願いをささげていれば心に留め、「同意」しましょう。これは力ある祈りです。もうすでに他の人がささげてしまった願いだから、同じことについて祈る必要はないとは考えないようにしましょう。

「また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。」（マタイ 18:19）

祈りの中で元気づけられることは、いかに大きな励ましとなることでしょう！

■神の約束に基づいて祈る

祈りにおいて用いることのできるさまざまな主題と聖書の約束を載せた資料を準備しました。祈りの集まりで、神の約束に従って祈ることを奨励しましょう。

わたしたち自身問題に目を向けることはたやすいことです。しかし、神の約束に基づいて祈るとき、わたしたちは自分の信仰を強めることができますし、神が働いてくださらなければすべては不可能であるということ再認識することができます。神様の約束は、わたしたちが自分の弱さや困難に目を向けることをやめ、キリストに目を向ける助けとなります。どんな弱さや困難であれ、それらに対する主の約束を聖書の中に見出すことができます。より多くの約束を探し、それらを書き留めて、約束に基づいて祈ることを奨励しましょう。

■断食（何かを断つ）

「10日間の特別祈禱」に参加する人たちに、「テレビを見ない」「世俗の音楽や映画・インターネットから離れる」、また「甘い食べ物や消化に悪い食べ物を口にしない」など、何らかの形での断食をするようにすすめてみましょう。それによってできた時間を祈りと聖書の学びに用い、あなたと教会員とがキリストとしっかりつながることができるよう神様に求めましょう。簡素な食事に慣れることにより、聖霊の声を受け入れることができるよう、心が整えられるのです。

■聖霊

一人の人のために、あるいは特定の状況において、何をどのように祈るべきかを教えていただけるよう聖霊に求めましょう。聖書には、わたしたちはどう祈るべきかを知らないが、聖霊がわたしたちのために執り成してくださると書かれています。

「わたしたちは、キリストの名によって祈るだけではなくて、聖霊に感じて祈らなければならない。『御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである』と言われているのは、そのことを説明している。このような祈りを神は喜んで聞いてくださるのである（ローマ 8:26）。

熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、『求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて』神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである（エペソ 3:20）。」（『キリストの実物教訓』126 ページ）

■一体感をつくりだす

特別祈禱の時間を始める際には、全員ができるだけ近くに集まるようにしましょう。それぞれが近づいて輪をつくることは、特別祈禱において非常に大切な一致の精神を高めます。参加者が部屋のあちこちに散らばっていると、それぞれの祈りの言葉も聞こえにくくなるものです。

■記録を残す

「10日間の特別祈禱」の記録を残すことは、日ごとの祈りの提案を自分のものとし、神様に対する献身を確かなものとし、主の祝福に気づくために有益な方法です。わたしたちの祈りを書き出し、神の応えを記録しておくことは、励ましを得る確かな方法なのです。

「10日間の特別祈禱」の記録の残し方は、いくつか考えられるでしょう。個人的な祈りの記録に、祈りに対する神の応えを記録する時間を祈禱会中に設けることができます。または、小グループとしてささげた願いごととその応えを記録することもできます。ノートでも、模造紙でも、黒板やホワイトボードでも、あるいはデジタルメディアを用いても良いでしょう。単純な

例としては、紙の中央部分に縦線を引き、願いごとを左側に、それに対する答えを右側に書くことです。神様がわたしたちの祈りにどのように応えてくださったかを振り返ることは大きな喜びですし、信仰も強められます。

■畏敬の念

畏敬の態度を奨励し、それをモデル化しましょう。わたしたちは宇宙の王のみ座に近づこうとしているのです。祈りのときを、特に時間を気にすることもなく、単なる習慣として漫然と過ごすだけの時間にしないようにしましょう。しかし、祈るときは常にひざまずかなければならない、というわけではありません。教会員に居心地の良い1時間を過ごしてもらいたいと思うのであれば、神が導かれるままに、それぞれにとって無理のないところで、ひざまずいたり、座ったり、もしくは立ったまま祈ることをすすめましょう。

■簡潔な祈り

祈りは短く要点を得たものであるべきです。それによって他の人たちにも祈る機会を与えるのです。祈りの言葉を2、3行の文章に留められるように挑戦してみましょう。それぞれが何回祈っても良いのです。短い文章の祈りは、祈りを飽きないものとさせ、聖霊の神様がわたしたちにどのように祈ったら良いかを教えてくださいることにつながります。「天の神様」や「み名によって祈ります、アーメン」などの決まったフレーズにとらわれる必要はありません。祈りは、あなたと神様との会話だからです。

■静かな時間

リーダーとして、祈りの時間にとらわれすぎはいけません。心がけるべきことは、できるだけ多くの人に祈ってもらうということです。神様に語っていただくという静かな時間を過ごすことはすばらしいことです。聖霊のお働きに委ね、全員に祈りの機会を提供し

ましょう。

■賛美

祈りの途中での自然発生的な賛美は、祈りの集まりに美しさを加えます。毎日、日ごとの読み物の後半部で讃美歌を紹介していますが、すべての讃美歌を用いる必要はありません。これはあくまでも提案です。一つの祈りの項目から次の項目に移行する間にも賛美を用いることができます。

■祈りの提案について話し合わない

祈祷会中に祈りの提案を挙げてもらわないようにしましょう。その代わりに、各自がそれぞれの願いを祈るようにし、他の人たちがそれらの願いに同意したり、その願いを祈ったりするように奨励しましょう。その理由は時間です。祈りの提案について話し合う際には、最も時間を要します。サタンはわたしたちが祈るために時間を費やす代わりに、話し合うことばかりに目を向けさせることを喜びとするのです。カウンセリングをしたり、問題解決の方法を提案したりする人もいるでしょう。しかし、力は神様から来るものです！ わたしたちが祈れば祈るほど、主の大きな力が与えられるのです。

■日々の時間の過ごし方

これは非常に大切です！ リーダーであるあなたは日々、キリストのもとで時間を過ごし、主と語り、み言葉を読まなければなりません。もしあなたが神様を知ることを人生における最優先事項とするなら、すばらしい経験への扉が開かれることでしょう。

「大宗教改革によって世界を揺り動かした力は、密室の祈りから出たものであった。そこにおいて、神聖な静けさのうちに、主のしもべたちは神の約束の岩の上しっかりと立った。」

(『各時代の争闘』上巻、261ページ)

【讃美歌の提案について】

日ごとの読み物の「讃美歌の提案」で紹介しているものは、主に『希望の讃美歌』ですが、『Songs of Hope -きぼうのせい』からも一部推薦されています。まだお持ちでない教会は、この機会にアドベンチスト・ブックセンターまでご注文ください。

注文先 store@fukuinsha.com
電話：0120-28-2910